

(様式1) 実践事例

| | | | | | |
|-----|---------------|------------|--|-----|---|
| 学校名 | 本宮市立白岩小学校 | 校長名 | 高橋 裕昭 | | |
| 住所 | 本宮市白岩字馬場193-1 | 児童生徒数 | 185 | 学級数 | 9 |
| TEL | 0243-44-2005 | ホームページアドレス | http://www.motomiya.gr.fks.ed.jp/?page_id=66 | | |

少人数教育のよさを生かした個別指導の充実
～学び合う児童の育成をめざして～

1 少人数指導の計画等

○ 本校では、2年生を30人学級、6年生を33人程度学級により少人数学級編制を行い、それぞれ2学級として、学習及び生活において一人一人に応じたきめ細かい指導を行っている。また、ともに児童数33人の4年生、5年生では、算数の授業に教頭、教務が入り、T・Tを行って、個人差に応じるよう配慮している。

なお、6年生の算数の授業では、単元によって、担任2名と校長・教務が入って4人で、2学級を3つのコースにわけた習熟度別授業を行っている。

○ 全国学力・学習状況調査やNRT学力調査などの結果から、基礎的・基本的な力は身に付いているが、思考力が身に付いていないという課題が明確になった。そこで、ペアやグループ、学級全体といった学習形態を工夫し、話し合いを教師がコーディネートする中で「学び合い」により思考を深めることができるよう、少人数教育のよさを生かし一人一人に寄り添った授業に取り組んでいる。

2 実践の概要 (第2学年2組 16名)

(1) 単元名 かけ算 (1)

(2) 本時のねらい

「1つ分の数」「いくつつ」という見方について理解することができる。

| 学び合いにかかわる個に応じた手だて | 教師の働きかけと児童の様子 |
|--|---|
| <p>1 児童の学習意欲を高め、自分の考えがもてるよう課題提示の工夫をする。</p> | <p>T 団子を串に刺した絵を提示する。一部を隠すことで興味を引くとともに、「1つ分の数」「いくつつ」に着目させた。</p> <p>C 一部を隠したことで、串の団子から「1つ分の数」などに着目して何個あるのか、児童は意欲的に予想を立てていた。</p> |
| <p>2 自分の考えをまとめ、分かりやすく説明できるよう、図や式、言葉を用いてノート作りをさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図を途中までかいたカードを用意 ・ 実際に分けて数えられるように「試してみようコーナー」を用意 | <p>T どうしてその数になったのか、友だちに分かりやすく説明できるように、図や式、言葉を使うとよいことを助言した。</p> <p>C 下位児童もヒントカードを使って考えをまとめることができた。</p> <p>C 式ができたら言葉で、表現する等、多様な説明の仕方を考える児童もいた。</p> |
| <p>3 ペアやグループで話し合う時間を設定し、自分の考えと比較しながら聞き、よい考えはノートにまとめることができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「早い・簡単・正確」であるか、をもとに話し合わせる。 | <p>T 自分の考えがもてたら、始めはペアで、次にグループで説明させた。全体の発表では、「早い・簡単・正確」という視点で話し合わせた。</p> <p>C 自分の考えと比較し、友だちのよい考えを吹き出しなどにしてノートにまとめていた。</p> <p>C どの方法が「早い・簡単・正確」なのか、話し合いの中で理解することができた。</p> |



3 実践の成果と課題 (○成果 ●課題)

○ 少人数指導のよさを生かし、課題提示から課題解決まできめ細かく対応することで、児童の主体的な学習を引きだし、合わせて適切な支援により学習内容が確実に身につけてきた。

○ 「学び合い」を繰り返すことで、自分の考えを確かになるとともに友だちの考えのよさを学び思考力を高めることができてきた。互いのよさを認め合うことは、自己存在感・有用感、児童の連帯感の向上にもつながっている。

● 少人数の中では、多様な考えを引き出すのが難しい。いかに多くの考えを引き出すか、教材研究をさらに充実させていく必要がある。